

農推第1827号
令和8年6月30日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予察注意報第3号

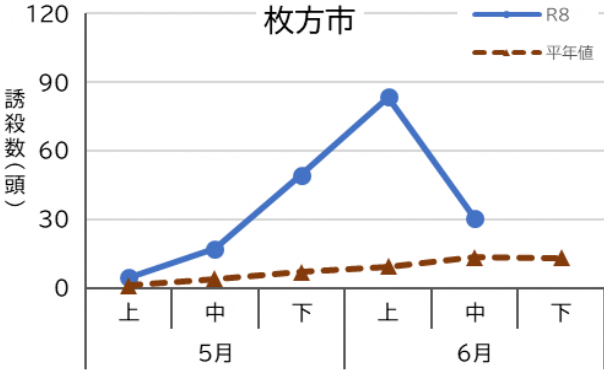
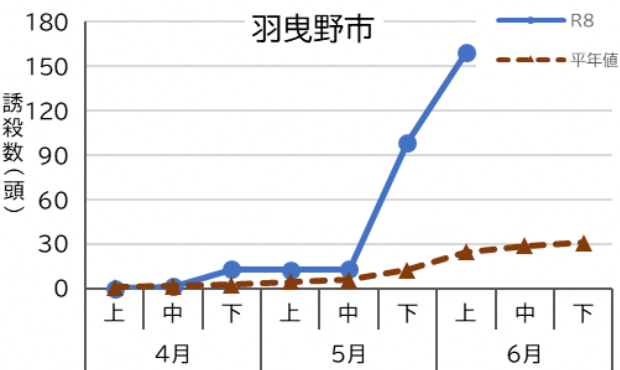
- 1病虫害名シロイチモジヨトウ
- 2対象作物しゅんぎく、ねぎ類、キャベツなどのあぶらな科野菜、なす科果菜類、花き類など
- 3発生地域府内全域
- 4発生量多い
- 5注意報発令の根拠

(1)5月下旬以降のフェロモントラップ誘殺頭数が平年に比べて多く推移している地点が多数見られた。(表1、図1)。

(2)大阪管区気象台の近畿地方1ヶ月予報(6月25日発表)では、向こう1か月の気温は、平年と比較して高い確率が50%、降水量が少ない確率が40%と予想されており、今後も多発傾向が続く可能性が高い。

表1 6月上旬のフェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウの誘殺頭数

地点名	本年 (頭/旬)	平年値 (頭/旬)	平年値 との比較
羽曳野市	159	25	6.4倍
枚方市	83	9	9.2倍
富田林市	57	8	7.1倍
堺市	109	67	1.6倍
岸和田市	170	113	1.5倍
泉佐野市	123	30	4.1倍



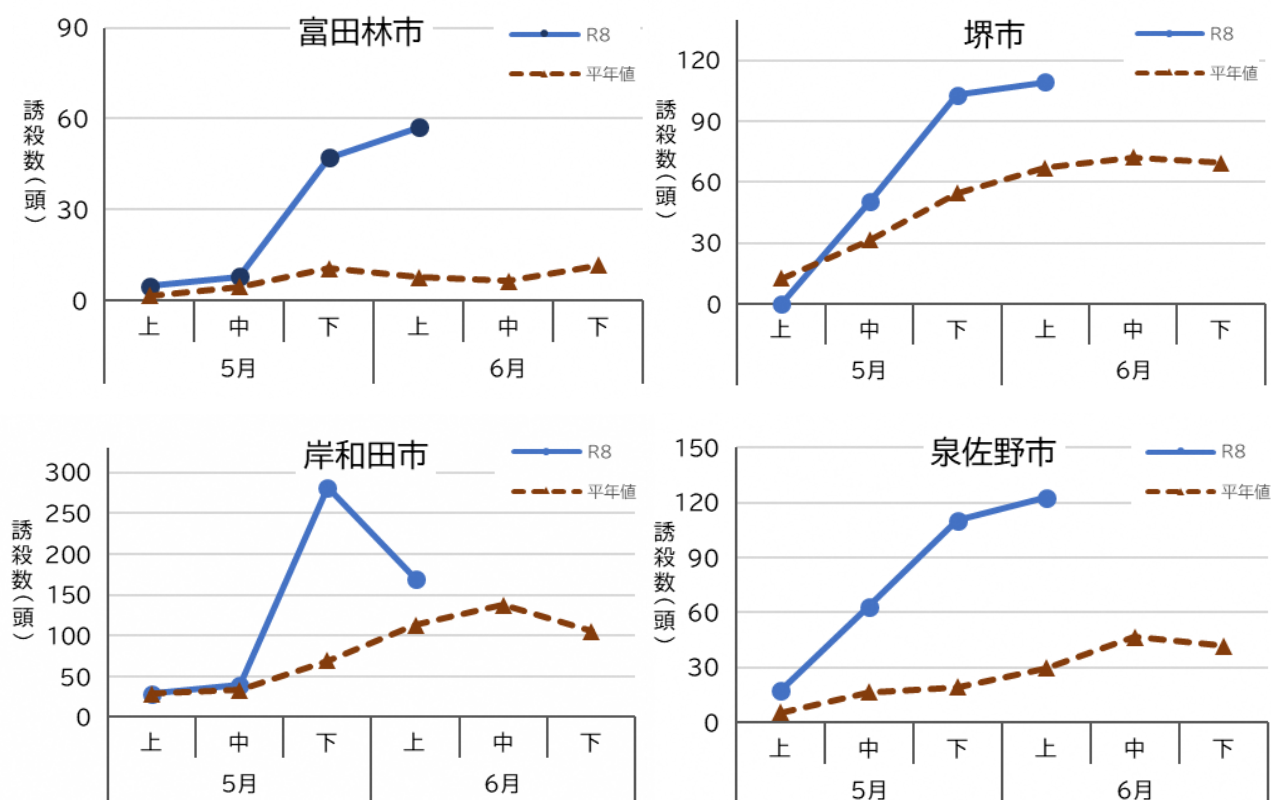


図1 フェロモントラップ調査におけるシロイチモジヨトウの誘殺頭数の推移
(羽曳野市、枚方市、富田林市、堺市、岸和田市、泉佐野市)

6 生態

- (1) 卵は直径約 0.4mm の球形で、数十～数百個程度が一つの塊となっており、黄白色～灰白色の毛に覆われる (写真1)。
- (2) 卵からかえった幼虫 (写真2) は、しばらく集団で葉を食害し、成長すると分散して単独で加害する。
- (3) 幼虫の体色は、若齢では淡緑色、中齢以降になると淡緑色、緑褐色、暗褐色と変異に富む。
- (4) 若齢、中齢幼虫の体長は約 10～20mm、老齢幼虫 (写真3) は体長約 30mm である。
- (5) 幼虫は5齢を経て土中で蛹になり、気温 25.5℃では7日ほどで羽化する。
- (6) 成虫 (写真4) は体長約 12mm、翅開帳時は約 30mm である。前翅は灰褐色で、黄褐色の環状紋がある。夜間に活動し、長距離移動する。昼間は葉裏や雑草地に潜む。



写真1: 卵塊

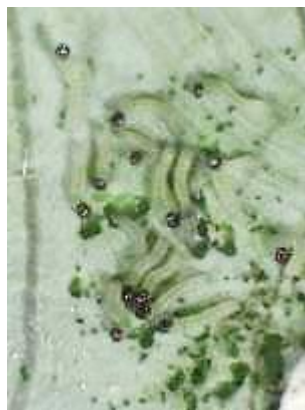


写真2: 若齢幼虫



写真3: 老齢幼虫



写真4: 成虫

※参考:カラー技術資料「シロイチモジヨトウ生態と防除対策」

<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/shiroichi-osaka.pdf>

7 防除対策

○基本的な防除

- (1) ほ場の見回りをこまめに行い、卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい葉ごと取り除く。また、ねぎでは、幼虫が葉身内に食入している場合があるので、注意して観察する。

○侵入・産卵防止

- (1) 施設栽培では、開口部を4mm以下の目合いのネットで被覆する。
(2) 露地栽培では、4mm以下の目合いのネット等でトンネルがけを行う。

○薬剤防除

- (1) 老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに防除することが望ましい。
(2) 本種は近年、近隣府県で、薬剤に対する抵抗性が発達し問題になっている。今後の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける（系統については表2防除薬剤例、病害虫防除指針などを参照する）。

表2 シロイチモジヨトウの防除薬剤例

作物名	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	使用回数
ねぎ	グレースシア乳剤	イソオキサゾリン(30)	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内
	コテツフロアブル	ピロール(13)	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
	ディアナSC	スピノシン(5)	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内
みずな	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン(5)	5000倍	収穫3日前まで	1回以内
非結球あぶらな科 葉菜類(除みずな、 非結球はくさい)	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン(5)	2500～5000倍	収穫14日前まで	2回以内
キャベツ	コテツフロアブル	ピロール(13)	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	スピノエース顆粒水和剤	スピノシン(5)	2500～5000倍	収穫3日前まで	3回以内
結球あぶらな科葉菜類	グレースシア乳剤	イソオキサゾリン(30)	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内
しゅんぎく	プレオフロアブル	ピリダリル(U N)	1000倍	収穫前日まで	2回以内
	ブロフレアSC	メタジアミド(30)	2000～4000倍	収穫前日まで	2回以内
トマト・ミニトマト	プレオフロアブル	ピリダリル(U N)	1000倍	収穫前日まで	2回以内

作物名	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	使用回数
野菜類	デルフィン顆粒水和剤 (除トマト、ミニトマト)	BT(11A)	1000 倍	発生初期 (収穫前日まで)	—
	ゼンターリ顆粒水和剤 (除キャベツ、はくさい)				
きく	コテツフロアブル	ピロール (13)	2000 倍	発生初期	2回以内
	トルネードエース DF	オキサジアジ ン(22A)	2000 倍	発生初期	4回以内
	ブロフレアSC	メタジアミド (30)	2000～ 4000 倍	発生初期	3回以内

- ・登録は令和8年6月 24 日現在
- ・最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・これら以外の剤については、Web 版大阪府病害虫防除指針も参照してください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html
- ・フェロモントラップ調査結果は以下のリンクから確認できます。
https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/trap_tyousa/r7/r8trap_tyosa.html